

# 今、何の病気が流行しているか！

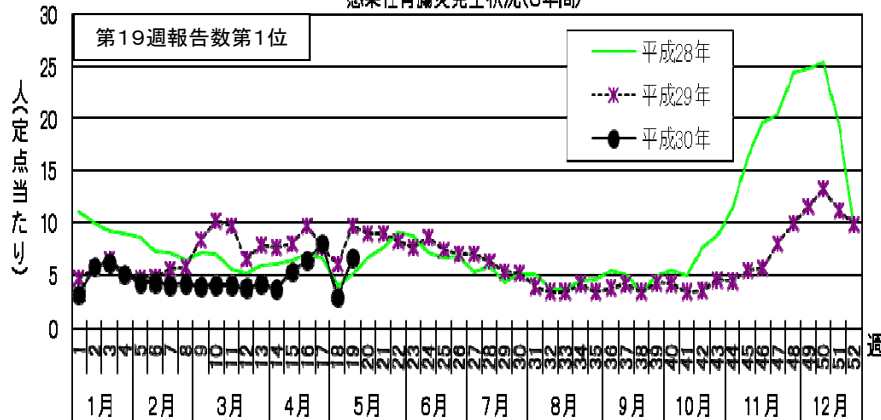
【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月7日（月）～平成30年5月13日（日）〔平成30年第19週〕の感染症発生状況

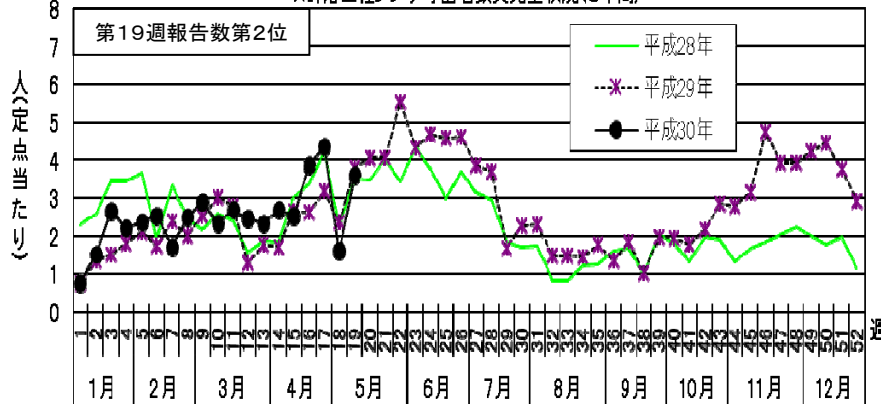
第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.57人と前週（3.00人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週（1.60人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（0.71人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## 伝染性紅斑の患者報告数が増加しています！

伝染性紅斑は一般的に「リンゴ病」とも呼ばれ、主に就学前後の小児を中心に流行する発疹性感染症です。

川崎市においては、1～3年毎に流行がみられており、今年は第19週（5月7日～5月13日）の定点当たり患者報告数が0.97人となり、3年ぶりに患者報告数が多くなっています。また、年齢階級別では特に3歳～7歳の小児で報告が多くなっています。

### 伝染性紅斑とは？

**病原体**：ヒトパルボウイルスB19

**感染経路**：咳や鼻水等による飛沫・接触感染

**潜伏期間**：おおむね4～15日

#### 症状

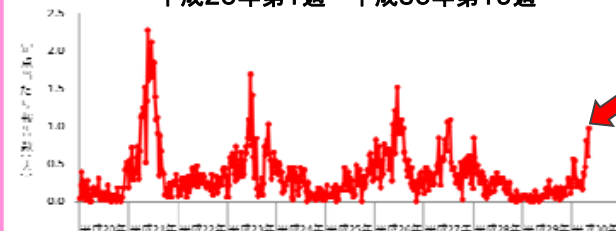
- ・両頬にリンゴのような紅い発疹が現れ、続いて手・足等に網目状の発疹がみられる。
- ・成人では関節炎症状が出ることもある。

**治療方法**：特別な治療法はなく、対症療法のみ

ウイルス排泄量は、発疹が出る7～10日くらい前が最も多く、発疹出現時には感染力は消失しています。

伝染性紅斑は子どもの疾患ですが、大人が感染することもあります。妊婦が感染した場合、胎児に異常（胎児水腫）がみられることがあるため、流行期には、かぜ様症状のある人との接触は避けましょう。

川崎市における伝染性紅斑発生状況(10年間)  
—平成20年第1週～平成30年第19週—



川崎市における伝染性紅斑年齢階級別発生状況  
—平成30年第1週～第19週—

